

**製品名: Dio-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09984**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	244kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DIDO1
別名	DIDO1; C20orf158; DATF1; KIAA0333; Death-inducer obliterator 1; DIO-1; hDido1; Death-associated transcription factor 1; DATF-1
遺伝子 ID	11083.0
SwissProt ID	Q9BTC0
免疫原	抗血清はヒト DIDO1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

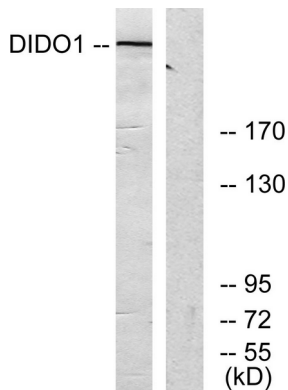
**背景**

アポトーシスは細胞死の主要な形態であり、不要な細胞を除去する効率的なメカニズムであり、後生動物の発生と恒常性維持に極め

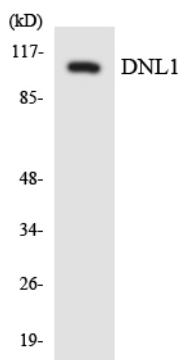
で重要な役割を果たします。マウスにおいて、death inducer-oblierator-1 遺伝子はアポトーシスシグナルによって活性化され、アポトーシスシグナルの活性化に伴い核へ移行する細胞質タンパク質をコードします。マウスのタンパク質を過剰発現させたところ、in vitro で増殖する細胞株にアポトーシスが誘導されました。この遺伝子はマウスの遺伝子と類似しているため、アポトーシスに関与していると考えられています。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写産物が見つっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],疾患: DIDO1 の欠陥は骨髄性腫瘍の原因となる可能性があります。機能: 推定転写因子、過剰発現時に弱いアポトーシス促進性 (類似性による)。腫瘍抑制因子。類似性:PHD 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。類似性:TFIIS 中心ドメインを 1 つ含む。細胞内局在:アポトーシス促進刺激後に核に移行する。組織特異性:普遍的。,

## 研究分野

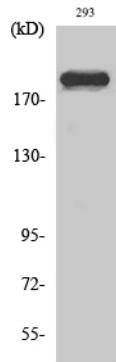
## 画像データ



DIDO1 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



DNL1 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 2000 に希釈した Dio-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析